

平成 27 年度 第 2 回教育課程編成委員会 記録

日 時：平成 27 年 9 月 15 日（火）10:00～11:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館 2 階会議室

出席者：小川英彦（愛知教育大学教授）、高田道雄（マハヤナ幼稚園長）、
安部孝（名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園長）、
鈴木照美（愛知教育大学非常勤講師）、武石協子（たきこ幼稚園長）、
藤澤卓美（校長）、畔柳守男（副校長）、木村節治（保育科長）、浦野忍（教学主任）

議 長：校長（記録：浦野）（敬称略）

1. 開会のあいさつ

副校長から開会のあいさつがされた。

2. 第 1 回の記録確認について

副校長より、第 1 回の記録が案内され確認された。

3. 協議

(1) 本校の教育目標の具体化等について（外部委員：○ 学内委員：□）

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○学生には、自分から課題に向かっていくアクティブな力、感情のコントロールが出来る力を養ってほしい。建学の精神「至誠奉仕」をよく理解し、清潔で保育者にふさわしい服装やその場面に合わせたあいさつなど、保育者としての細やかな立ち振る舞いができるようになってもらいたい。また、他者と気持ちよく過ごせるバランスのよい心、環境を美しく整える能力を養ってほしい。

○学生には、保育者になるための「テーマ」を見つけてほしい。問題意識をもってほしい。

○コミュニケーション能力を育てる授業を行ってはどうか。

○保育者の本質部分を育てるカリキュラムが重要である。

□学生が自分の能力さえ気付かないことが多い中、その可能性を伸ばせるのは学校教員である。

□学校では課題解決型学習を展開したい。

(2) 教育課程、シラバスについて

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○園との密接な連携を考えたときに、実習指導は今まで紙媒体で行われてきたが、IT 機器等を使った即時対応の出来るシステムを考えてはどうか。

○1 年次実施のプレ実習で、入り口の体験ができ、感じることで出来る強みを活かしてほしい。

○実習指導室の設置、実習指導の補助教員などを配置する方法もある。

○滝子キャンパスの有効的な利用をするなかで他校にないものを考えていく（現場での体験指導など）。

□滝子幼稚園、たきこ幼児園との共通指導（園と学校側）を考えていきたい。また、現場の教員、保育士が授業に携われる機会を今後模索していきたい。

【 保育科 指摘事項 】

○乳児保育など授業でも現場を見る機会を作れないか。

□可能であると思う。今後、検討していきたい。

(3) 各教科の授業について

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○学校側が講師に対し「ここを重点的に指導してほしい」などの方向性があるとよい。

○保育現場の経験のある教員が当たることが、より実践的なものにつながる。

○保育・教職実践演習に乳児保育を入れてはどうか。

○滝子キャンパス内の幼稚園教諭・保育士をゲストティーチャーとして招聘する機会を増やす。

□授業内容についても重要視される内容を横断的に整備したい。

□1年次実施のプレ実習内容を充実させていきたい。

【 保育科 指摘事項 】

○教科書頼りの授業では今後の養成は難しいと感じる。特に昼間部の学生へは、学生生活も含めた指導を充実してほしい。

□アクティブラーニングを積極的に導入していく。

(4) 実習について

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

○実習をビデオ撮影をし、同じ場面を見て幼児理解、保育者のかかわりの意味の理解など、多面的な幼児理解の資料とする。

○子どもの内面に踏み込んだエピソードを基に授業と実習の総合化を図る。

○実習評価の積極性、進んで関わる等があるが、待つことや受け入れることなど、受容する姿勢も大事である。

○現場の指導者、学校の教員とのずれをなくし、意見交換の場を大切にしたい。

○受容すること、予告すること、落ち着く場所を見つけておくこと、などを学生のうちに知っておくことは重要。

○行事での役割を持って学生が参加することは非常に重要である。

【 保育科 指摘事項 】

○3日間のプレ実習を行った後に、継続して課題を持って実習に臨ませる機会がつかれないか。

□今後、検討していきたい。

【 保育科第二部 指摘事項 】

- 保育科第二部はプレ実習を行わないのか。
 - プレ実習は本年度から試行的に導入したものであり、次年度からは保育科第二部にも実施していく予定である。
- (5) 本校が構想している現場との連携について
- ア) 本年度の実習予定を保育科長から説明
 - イ) 滝子幼稚園実習の実際を校長から説明
- 下記のような意見が出された。

【 保育科・保育科第二部 共通事項 】

- 保育所での実習の1回目と2回目の間に施設実習をもってくるのは良い。
 - 園での行事に多く参加させてもらうことは、機会が少ないので良い。
 - 子育て支援ルームを設置し、学生にも関わる機会をもちたい。
 - 実習を通してスキルアップするとともに、保育園と幼稚園の違いを学生が感じることも必要。
- (6) その他
- 保育科・保育科第二部ともに、本年度授業（保育・教職実践演習）のなかで幼稚園・幼児園（保育園）の現状を踏まえて学生が個人課題の追求を行いたい。また教員間の連携をとっていききたい。
 - 保育科・保育科第二部ともにシラバスを直接変更するのは難しいが、授業内容の改善を行っていききたい。
 - 教員の研修形態なども意見を伺いたい。
 - 本会を年2回開催する。

以上